

平均在院日数短縮化による影響について

1 委員発言

(原澤副委員長)

「埼玉県では現状、回復期病床が足りないが、地域包括ケアシステムが回れば、急性期病院に長く入院するより、例え合併症があっても後方病院で診療を受ける流れになる可能性が十分にある。がんセンターでも基本的に急性期の治療を提供後、後方病院などに任せれば平均在院日数は短くなっていく。」

(田中委員)

「がんセンターがポジショニングをアピールし、特に併発症を持つ患者、稀少がん、高度ながん治療で新患獲得をすることは可能。しかし、入院日数はもっと短くなっていくので、今後、病床利用率は上がらないという前提で考えなければならぬ。」

(小池委員)

「がんセンターの潜在的な合併症患者数の試算では 2025 年の平均在院日数を 2016 年と同じ日数で計算しているが、今後、平均在院日数は短くなるのではないか。」

2 がんセンターの平均在院日数と実入院患者数

